榊原政岑事蹟　草

H 20
438

鷗外

東京帝國大學圖書印

B 23475

000432805 0

榊原氏

一 康政 ─ 忠政 松平出羽守 大須賀康高養子 ─ 三 忠次 松平 依台命續榊原氏

二 康勝

勝政 香庵

四 政房 ─ 松姫 左近衛少将義行室 元尾州大納言光友卿簾中千代姫養女

五 政倫

勝直 伊織 寛文七年旗本千石

政喬 采女 寛文七年旗本五百石、後八百石、計千三百石

六 政邦 ─ 七 政祐

勝治 ─ 勝久 ─ 八 政岑 元勝岑 享保十七年八月継宗家、

伊織家絶

九 政永 ―十 政敦 ― 政令

職序 左衛門 榊原庄五郎職茂養子

十二 政養

政禮 ―十四 政敬

十三 政受

五代孫 十五 政和

尾州家

一 源義直 ―二 光友 簾中千代姫 ―三 綱誠

義行 從四位少將攝津守高須三万石 室榊原政房女

四 吉通 ― 某 五郎 贈從三位宰相 ―五 繼友 ―六 宗春

四月廿六日改元

榊原政岑

享保十七壬子　齢十八　八月廿三日養子　十月十三日家督　在府　在城

十八癸丑　十九　初入部　六月　七月九日

十九甲寅　二十　六月　五月廿二日

二十乙卯　廿一　四月廿三日迎室　十月廿八日政永生姫路母谷口氏　六月　七月十三日

元文元丙辰　廿二　十二月従四位侍従　六月朔実俊卿生姫路母樋田氏　六月七日　五月十四日

二丁巳　廿三　二月十四日室卒　二月十四日達姫生江戸母室松平氏　七月廿一日勝行生江戸母阿部氏　七月十二日　七月十九日

三戊午　廿四　六月十六日勝定生江戸母谷口氏　五月廿三日民姫生姫路母浅田氏　七月十二日　五月十四日

四己未　廿五　七月九日　七月廿三日

五庚申　廿六　五月二十日佛姫生母谷口氏　六月朔　五月十四日

二月廿七日改元

寛保元年辛酉 廿七 十月廿三日隠居 同日政永家督 江戸九段

二壬戌 廿八 五月 赴高田

三癸亥 廿九 二月十七日 卒

六十一 七月十四日 九月廿六日

原田権左衛門重種 中根喜次郎長年 伊藤忠兵衛正義

壬子

癸丑

甲寅

乙卯

丙辰 三月隠居

丁巳

戊午 三月四日没

己未

庚申 三月退役

辛酉 九月復職

壬戌

癸亥 三月退役

村上備右衛門佳直 竹田十左衛門信安 原田兵庫種英 以上家老

壬子

癸丑

甲寅

乙卯 七月見習 七月見習

丙辰 三月家督

丁巳

戊午

己未

庚申

壬子

癸丑

甲寅

乙卯

丙辰

丁巳

戊午

己未

庚申

伊奈主水重利 — 五月病歿

村上將監住包 — 八月十晉讓於子

竹尾隼人繁卿

鈴木左仲敬重 — 十二月隱居

清水主鋭助廣慰 — 三月依願退役

久留勘右衛門將彙 — 八月隱居

三月病歿

柴田六左衛門府晴 — 七月退役十二月中老隱居

辛酉

壬戌

癸亥

10 (加製)

伊太夫金左 諱乃斎寛 久田代内 記昇房准十 伊藤又左 諱乃永民 森三郎左 諱乃良賢 三浦求馬 清賢 川口佐一左 諱乃可竜 木村半左 諱乃敦立	
壬子	
癸丑	八月就任 八月就任
甲寅	
乙卯	八月就任
丙辰	
丁巳	八月就任
戊午	
己未	十二月就任
庚申	
辛酉	正月病死
壬戌	十一月病死
癸亥	

辛酉 十二月役儀被召上

壬戌

癸亥

以上中老

十二月役儀被召上

八月就任

政岑

享保十七年乗出ノ次帝鑑間ニテ同列某姫路城櫓ノ數ヲ問フ政岑云ク城ノ要害ヲ問フハ何ノ為カト某慚謝ス安人ハ知ラザルナリコレヨリ人政岑ヲ憚ル

尾州家トハ親戚ニテ交深シ政岑ノ「海士」ノ曲尾侯ノ気ニ入リヌトテ云フコト伝ヘラル然モ尾ノ宗春ハ将軍吉宗ト善カラズ宗春政岑共ニ謀ル所アリ遊廓ニテ會合ス

寛保元年冬二人不行迹ノタメ譴責セラル其基ハ青網ヲ掛ケシム

政岑ハ致仕シ政永九歳ニシテ嗣グ所替且高田ニ
轉封セラル

政岑ハ寛保三年二月高田ニ卒ス年二十九

政岑ハ旗本千石榊原伊織勝治ノ二男ナリ享保十六
年辛亥兄勝久病死シテ家ヲ襲ギ十七年壬子八月
榊原政祐卒シ其養子トナリ十月十三日家督相續
ス實家ハ此時断絶ス

政岑ノ子ニ勝行勝定ノ名アルハ實家ヲ再興セシノ意
アリシニヤ

寛保元年ノ七月十五日政岑江戸ヨリ姫路ニ帰着ス九月
七日老中織田淡路守ナ江戸ノ邸ニ召シ松平左近将監ヲ
シテ政岑ノ行迹ヲ問ハシム八日又能勢因幡守ヲ召シ
松平左近将監ヲシテ同事ヲ問ハシム十日又榊原七郎右
衛門ヲ召シ並同ニテ加納遠江守、小笠原石見守ヲシテ同
事ヲ問ハシム十六日松平伊豆守竹田矢左衛門ニ奉
書ヲ交付ス同日付老中連署政岑宛ニテ御用之儀有
間可致参府旨被仰出ト云フ文ナリ政岑ハ二十六日姫
路ヲ発シ十月九日江戸ニ着ス従者

中老　久代内記

医師　喜多白雲

木戸順造

奏者番
大河内五左衛門

柴田四郎八

目付
大原卯十郎

藤山勘太夫

小納戸
片岡新左衛門

鈴木又蔵

波多野律右衛門

斎藤晃毛

但君敏男付使者

厩役
上野軍太左衛門

渡部源平

中小姓
梶川金太夫

山路喜市郎

氣賀又三郎

菅沼左三郎

鷹見新之助

同 唯弥

服部八郎左衛門

山上郷右衛門

十月十三日奉書ヲ以テ伊勢因幡守、柳原七郎右衛門、
柳原大膳ヲ江戸城ニ召シ本多中務大輔書付ヲ交付シ
次デ大目付稲葉下野守上使トシテ邸ニ来リ政岑ニ隠
居~~閉門~~且慎急度慎ヲ命ズ政岑ハ病中トイフヲ以
テ伊勢因幡守名代トシテ受ケ若殿家督シ上ゲ所
替ノ内命アリ

十一月朔日高田ヘ所替ヲ命ゼラル

是ヨリ先キ太田原某政岑ヲ諫ム政岑火鉢ノ火ヲ挟
ミテ之ヲ太田原ノ懐紙ニテ承ケ袂ニ入レ猶諫メテ退キタ
トイフ一説ニ此ヲ中老久代勘右衛門将業ナリトイフ然レ
ドモ将業ハ享保十八年八月致仕、子内記中老トナリ元
文元年将業歿ス恐ラクハ誤ナラン

高尾ハ幕府ノ使吏ニ向ハレ尾侯ト政岑トノ事ヲ
言ハズ後高田箱井村(今和田村ノ中)ニ住ス

10

高知螢製